

3

Feature

AIPネットワークラボ 若手の躍動と連携で 新しい発想を生む

12

はかる 第2回

世界初の理論とソフトウェア技術により
電池内部の電流を非破壊で見る

14

NEWS & TOPICS

印刷技術で薄くてやわらかいモーターを実現

機械学習により熱流を制御するナノ構造物質の最適設計に成功 ほか

16

さきがける科学人 Vol.63

生物のような体と適応力を持つロボットを作る
梅舘 拓也

東京大学大学院情報理工学系研究科 特任講師



表紙写真

情報科学分野の若手研究者を育成するAIPチャレンジ。初めての成果報告会が開催され、5人の若手研究者に「AIPネットワークラボ長賞」が贈られた。前列左から、胡緯華さん、有川節夫ラボ長、白井靖浩さん。後列左から、蜂須拓さん、樋口啓太さん、伊藤勇太さん。

ジェンダーサミット10を開催

「ジェンダーサミット (Gender Summit (GS))」はジェンダーの視点を取り入れて研究やイノベーションの質の向上を図るための議論をする国際会議です。10回目の今回、日本で初めて開催しました。23の政府機関や団体の後援、88の企業や大学、団体の協賛などを含め、114の機関の協力を得て開催し、23の国および地域から、600名以上が参加しました。

会議の冒頭では、スマヤ・ハッサン・ヨルダン王女、水落敏栄文部科学副大臣、カナダ自然科学・工学研究協議会 (NSERC) のマリオ・ピント理事長、中国国家自然科学基金委員会 (NSFC) のルイピン・ガオ副主任、お茶の水女子大学の室伏きみ子学長が講演しました。



オープニングでチェアを務める濱口理事長。



会場の様子。

全体のテーマを「ジェンダーとダイバーシティ推進を通じた科学とイノベーションの向上」と題し、キーノートセッションでは「ジェンダーの歴史と未来」をテーマに、日本IBMの浅川智恵子IBMフェロー、香港大学のアンジェラ・リャン教授、京都大学の山極寿一総長らが講演しました。プレナリーセッションは、「アジアにおける深刻な問題への女性の貢献」「ジェンダーに基づくイノベーション」「科学の社会的責任」をテーマに実施し、さらに、「女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利点の明確化」「ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示」など6つのパラレルセッションも行われました。

特に「スポーツにおける身体とジェンダー・サイエンスの推進」と「男性・男子にとってのジェンダー平等」はGSで初めてのテーマであり、スポーツのセッションでは鈴木大地スポーツ庁長官が、

女性のスポーツ参加を増やすためのスポーツ行政の現状について話されました。

最後に国連の持続可能な開発目標 (SDGs) への提言として、「ジェンダー平等」が「ジェンダーと科学技術イノベーションをつなぐ」「SDGsをつなぐ」「すべての人をつなぐ」という3つの意味を込めた「東京宣言：架け橋 (BRIDGE)」を世界に向けて発信し、閉会しました。